

# 第3学年 算数科学習指導案

日時 令和4年5月25日(水)第5校時  
対象 第3学年2組 33名  
授業者 吉田 悠太  
会場 3階 3年2組教室

## 研究主題

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成  
～キャリア教育を通して～

### 1 単元名

「時こくと時間のもとめ方を考えよう」

### 2 単元の目標

秒について知り、時間に関する理解を深めるとともに、数学的表現を適切に用いて時刻や時間の求め方を考える力を養い、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
秒について知り、他の時間の単位との関係を理解するとともに、時刻や時間を求めることができる。	時間の単位に着目し、時間を既習の量と統合的に捉えるとともに、図などを用いて時刻や時間の求め方を考え、説明している。	時刻や時間に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

### 4 単元設定の理由

#### (1)教材について

本単元で扱う時間は、学習指導要領には以下のように位置付けられている。

第3学年 C測定

(2)時刻と時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること

(ア) 秒について知ること。

(イ) 日常生活に必要な時刻や時間を求めること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること

(ア) 時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方について考察し、日常生活に生かすこと。

時刻と時間の指導については、第2学年までに「分」までの時刻を読むことや時間を求めるこ

とを学習してきている。第 3 学年では、これらの既習事項を基に学習をさらに進めて、日常生活での、ある時刻から一定時間前後の時刻（長針が 12 を超える場合を含む）や 2 つの時刻の間の時間を求める。また、「秒」や 1 分=60 秒の単位関係についても理解できるようにする。

## (2)児童の実態

本学級の児童 33 名に対し、なりたい自分について考えられているかについてアンケートを行った。「3 年生として、どんな自分になりたいかを言うことができますか。」に対する回答は、64%ができると回答していた。一方で、「なりたい自分にむけて、お家でがんばっていることはありますか。」にあると回答した児童の割合は 43%だった。頑張っていることの内容としては家事の手伝いや勉強に関する項目が見られた。半数以上の児童がなりたい自分に向けて具体的な取組ができていないことが明らかになった。

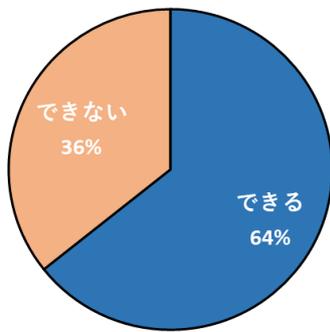


図 1 「3 年生として、どんな自分になりたいかを言うことができますか。」の回答

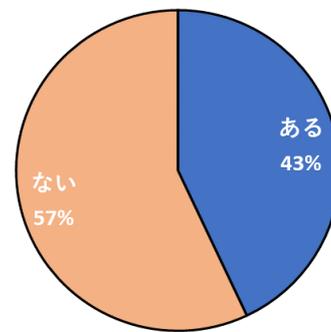


図 2 「なりたい自分にむけて、お家でがんばっていることはありますか。」の回答

## (3)教師の願いと指導の工夫

本単元では、自分自身の休日の生活について振り返り、休みの日の時間の使い方について計画を立てる活動を通して、時刻や時間の数理的な処理を生活に生かすことを目標とする。本単元の学習は、より身近な題材として目的意識をもって取り組めるだけでなく、キャリア教育で育成すべき力である基礎的・汎用的能力のうち、「自己理解・自己管理能力」の育成にも関連する。「自己理解・自己管理能力」とは、小学校キャリア教育の手引き（改訂版）において、

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

と記載されている。本単元において時刻と時間に関しての数理的な処理に対する理解を深めることで、より正確に自己の生活を振り返り、今後の生活のためにどのように時間を使っていけばよいかを考えることができる。

単元の第 1 時では学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と 自己実現」として、なりたい自分に向けてどのように生活していけばよいか考える活動を行う。この活動を通して自分の休日の過ごし

し方に目を向け、なりたい自分に向けた活動にどの程度の時間を使えるのかを算出し、第2時ではその時間をどのように使っていくかについて計画を立てる活動を行う。

## 5 研究主題に迫るための手立て

### (1)自分の生活を振り返る活動

自分の生活を振り返る活動を取り入れ、今後の成長のために使える時間がどの程度あるのかを考えさせる。

### (2)自分のこれからの生活について考えさせる活動

これから休日にどのように時間を使うかについて計画を立てることで、今後の自分自身の可能性を伸ばすためにどうすればよいかを考えさせる。

## 6 単元の指導計画

時	教科・領域	目標	学習活動	評価の観点と方法
1	特別活動	なりたい自分を目指し、これまでの自分を振り返り、これからの生活に生かそうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生として頑張りたいことについて考え、なりたい自分について考える。</li> <li>・自分の休日の過ごし方を振り返り、なりたい自分に向けて休日に使うことのできる時間を求める。</li> </ul>	[態度] なりたい自分を目指し、これまでの自分を振り返り、これからの生活に生かそうとしている。【ワークシート】
2 本 時	算数科	休みの日の時間の使い方について計画を立てる活動を通して、時刻や時間の数理的な処理を生活に生かすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休みの日の時間の使い方について計画を立てる。</li> </ul>	[思判表] 時刻や時間の数理的な処理を生活に生かした内容を、筋道立てて説明することができる。【観察・ワークシート】

## 7 本時

### (1)本時のねらい

休みの日の時間の使い方について計画を立てる活動を通して、時刻や時間の数理的な処理を生活に生かし、その内容を筋道立てて説明することができる。

### (2)本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★研究主題に迫るための手だて
導入	<p><b>1 なりたい自分になるために、休日にしたい活動とその時間を共有する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーの練習に1時間取り組みたい。</li> <li>・算数の勉強に30分間取り組みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で休日にしたい活動とその時間について考えさせ、ワークシートに記録させておく。</li> <li>・したい活動が同じで時間が違う児童の意見も聞き、活動に対する適切な時間の幅を捉えさせる。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">休みの日の計画を立てよう。</div>	
展開	<p><b>2 休日の過ごし方について計画を立てる。</b></p> <p>○習い事がない休みの日に、何時から何時までどんなことをしたらよいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前8時から午前8時30分まで30分間読書をする。</li> <li>・午後4時から午後5時までの1時間野球の練習に取り組む。</li> </ul> <p><b>3 休日の過ごし方についての計画を発表する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・僕は将来サッカー選手になりたいです。そのために、午前6時から午前6時20分までの20分間は走り込みをし、午後4時から午後5時までの1時間はシュート練習をします。</li> </ul>	<p>★自分のこれからの生活について考える。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で求めた休日に使うことのできる時間を参考に考えさせる。</li> </ul> <p>◇[思判表]時刻や時間の数理的な処理を生活に生かし、その内容を筋道立てて説明している。(発表・ワークシート)</p>
まとめ	<p><b>4 本時の学習を振り返り、学習感想を書く。</b></p>	

## 成果と課題

①前時で行った「自分の生活を振り返る活動」が、本時での自己理解・自己管理能力の育成に効果的だったか。

### 成果

- ・ 前時で自分の事としてあげたものが教材になるため、興味がもちやすかった。
- ・ 友達の発表を聞いて、自分も苦手なことに時間を費やしたいという考えがでていた。
- ・ 問題をただ解くのではなく、学習したことを生活の中に生かして考えることができていた。

### 課題

- ・ それぞれが異なる問題を解いているようになってしまい、具体的な計画を立てることが困難な児童がいたため、支援が必要。「夢」でなくても「〇〇がうまくなりたい」などの別の視点での活動を考える必要がある。
- ・ 特別活動なのか算数科なのか曖昧になってしまった。「はじめの時刻と終わりの時刻を求める」「算数を“日常にいかす”ために妥当な量感を身に付ける」などの算数科としての目標を明確にする必要がある。共通の時間をテーマにすれば、妥当性を検討しやすく、算数科として深まりのある授業が実現できる。

②「自分のこれからの生活について考えさせる活動」が自己理解・自己管理能力の育成に効果的だったか。

### 成果

- ・ ①と同様に自分の考えに友達の考えをいかしていた。
- ・ 自分だけでなく家族の事も考えていた。(社会との相互関係)
- ・ 前時で自分の自由に使える時間の中でという設定が効果的だったのではないか。
- ・ キャリアとはさまざまな教科と結び付いていることが明らかになった。

### 課題

- ・ 自己管理能力の育成のきっかけになる授業であったが、計画したことを実践できるのか、継続できるのか、今後の声掛けや確認が課題である。
- ・ キャリア・パスポートを有効に活用し、今後の成長を追っていく必要がある。